

## 平成 24 年度 明星大学「入学前教育プログラム」実施と現状報告 — 三年目を迎えて —

羽 矢 みずき\*

### 1. はじめに

平成 24 年度の年内推薦入試の入学予定者を対象とする「入学前教育プログラム」を、3 日間に渡り「スタートアップ講座」として実施した。さらに通信添削の成績結果を受けておこなう 2 日間の「フォローアップ講習」も、前年度に続いて 2 回目の実施を予定している。

「入学前教育プログラム」の目標は、①大学での学びの意欲を高める、②基礎的な学力維持のため「通信添削」に取り組む、③大学生活開始までの期間を有意義に過ごせるようにするということである。「スタートアップ講座」では、「通信添削」を担当している四谷ゼミナールと連携し、入学前の大切な時期における「通信添削」への取り組みと、リメディアル教室の積極的な利用を促すことを目的とした。同時に開催した「保護者説明会」も、明星教育センターが統括しておこなった。

また平成 23 年度の「フォローアップ講習」は、「スタートアップ講座」後に開始する「通信添削」の国語の成績結果から、文章作成欄が空白など、明らかに解答する意欲がないと判断した入学予定者 143 名を選出し、平成 24 年 3 月 14 日・15 日に「フォローアップ講習」（50 分授業 2 コマ）を実施した。平成 22 年度は 3 月 11 日の東日本大震災により実施がとりやめとなったため、初めての実施となった。

平成 24 年 11 月 18 日・12 月 16 日・12 月 23 日に実施した 3 回の「入学前教育プログラム」の結果と、平成 25 年 3 月 13・15 日に実施予定の「フォローアップ講習」について報告したい。

### 2. 明星大学のサポート体制

#### (1) サポート体制の構造

明星大学における全学での「入学前教育プログラム」は、「プレテスト・スタートアップ講座」「通信添削」「フォローアップ講習」「スクーリング」という 4 つのサポート体制で構成されている。入学予定者にはシステムを説明すると同時に、「プレテスト・スタートアップ講座」「通信添削」までを 1 日で体験することを説明した。

今年度の「入学前教育プログラム」も、前年度同様に受講する入学予定者・教職員・学生スタッフの負担を軽減するために、「スタートアップ講座」の実施を 3 回に集約し、座席や教室の移動を最小限にした。

「通信添削」については、試験ではなく参考書・辞書などで調べて解答する教材であること、「スクーリング」を利用し、教員の指導を受けて解答を作成できることなど、詳細な説明を「通信添削」の担当者が行った。担当者からの直接の説明は、「スクーリング」の利用のきっかけとなり、学習意欲を持たせることに繋がっていくと思われる。また、当日に体調不良を訴える入学予定者を想定して、1 名の看護師の待機を要請した。

今年度の 3 回に渡って実施した「入学前教育プログラム」の日程と対象者を以下にあげたい。

---

\* 人文学部 常勤教授 明星教育センター

「入学前教育プログラム」対象者

回数	日程	対象者
1	平成24年11月18日(日)	AO 9月・10月入学予定者
2	平成24年12月16日(日)	指定校推薦入試・公募制推薦、明星高校、卒業生子女・スポーツ
3	平成24年12月23日(日)	AO 12月入学予定者

(2) アドミッションセンターとの連携

これまで「プレテスト」はアドミッションセンターが中心になって実施してきたが、今年度から明星教育センターが中心になって実施した。同時刻に開催した「保護者説明会」でも、明星教育センターの職員が学生へのサポート体制についての説明を担当し、さらに在学生在が紹介する現在の大学生活の様子は今年度も好評だった。

3. 「入学前教育プログラム」の内容

午前	10:00～10:15	「入学前教育プログラム」についての説明	
	10:20～10:50	プレテスト(英語)	必修
	11:00～11:30	プレテスト(国語)	
	11:40～12:10	プレテスト(数学)	選択
午後	13:00～14:30	スタートアップ講座	
	14:40～15:40	学科交流会	

(1) 「プレテスト」

前日に、「入学前教育プログラム」で使用する「ガイドブック・アンケート用紙2種類・キャンパスマップと教室割表(両面)の別紙」という4種類の資料を入れた封筒を、受験番号のついた机に置いて準備する。

当日は10時から事前説明を開始し、ガイドブック1頁の「今日の予定」を指示しながら「プレテスト」「スタートアップ講座」「学科交流会」の内容と目的について説明する。「プレテスト」は午前10時20分から12時10分までの1時間50分で3科目の試験を実施した。

(2) 「スタートアップ講座」

所要	内容	方法	注意点・配布物
10分	導入グループ作り	学生スタッフが、4人一組のグループを指示する。スタートアップ講座の目的を説明し、「スタートアップ講座では大学生活をイメージして、入学までしておくことを考えましょう」と明確に授業内容を伝える。	欠席者の状況によって、3人または5人一組にする
10分	自己紹介 アイスブレイク	自己紹介シートの説明。個人で自己紹介シートに記入する。その後、個人が発表してグループで共有する。	
10分	大学生活をイメージする	全員でインタビューシートを見るように指示し、使い方の説明をする。「話す・聴く」を通してグループで交流する。	インタビューシートを1枚配布
20分	「大学生準備度」を チェックしよう	チェックリストを記入させる。項目を選んだ理由も記入する。 説明後にグループで共有。入学までにどのような点に注意して生活するべきかを意識する。	「明星大生になるまでに」 全員配布
20分	通信添削ガイダンス 四谷ゼミナール講師	添削を担当する先生の紹介と通信添削の学び方の説明。	
10分	「明星大学校歌」を聞く	新入生を起立させて、歌い方の説明後にCD演奏に合わせた合唱部の歌を聞く。2回目のCD演奏に合わせて新入生も歌うように指導する。	終了時に受験番号シールの撤去と、教室移動を指示
10分	振り返り	講座の振り返りを書かせて、グループで共有する。	

## ■今年度の改善点

1 回目は 2 クラス、2 回目は 3 クラス、3 回目は 1 クラスという構成で実施した。今年度は「スタートアップ講座」の最後に自校教育の一環として明星大学校歌を新生に紹介した。校歌や明星大学の歴史に親しむとともに、明星大学の学生としての自覚を持たせるきっかけとなる時間を設けた。入学後の「自立と体験 1」で実施する自校教育の回と連携するものとしてその効果を期待したい。

今年度は、前年度の「スタートアップ講座②」を「学科交流会」と改称して、各学部学科による独自の指導を試みた。入学予定者は指定された教室に移動し、60 分以内で学科の担当教員や在学生による説明を聞き、授業を受けるという内容である。「学科交流会」を別の日に実施する予定の 3 学科（心理学科・福祉実践学科・教育学科）については、明星教育センターの教員が担当して在学生の話などを紹介した。

## 【授業内容】

### ①導入

授業開始時に、グループ学習のために 4 人一組のグループを作ることを伝えて開始する。欠席者による空席があった場合、学生スタッフが 4 人一組を 3 人あるいは 5 人一組にしてグループに分ける。

「入学前教育ガイドブック」を指示しながら、「スタートアップ講座」を実施する目的を説明し、「明星大学入学までに何をしておく必要があるのか」ということについて、各自で考えたことをグループで話し合って深めるという手順を説明した。

### ②「自己紹介シート」(アイスブレイク)

「自己紹介シート」では、4 つの質問に対する答えを、各自であらかじめ考えてから発表していく。グループワークを初めて経験する入学予定者が多いため、発表の順番は教員が指示した方がスムーズに始められた。

答えは一言だけで終わらせるのではなく、その答えの理由も付け加えた方が会話に広がりが出るということを説明すると、会話を続ける努力が見られ、会話を深めるということを体験できたと思われる。

「自己紹介」を終えた時点で、話が活発なグループと話にくそうなグループが明確になってくる。サポートする学生スタッフに、この点に注意してサポートするように指示しておいたため、適確に対応する様子がみられた。

### ③「インタビューシート」(アイスブレイク)

12 問の質問を記載した A3 用紙の「インタビューシート」1 枚をグループに配布し、全員でシートを見るように指示した。全員が質問者になり回答者にもなるこのゲームは、グループメンバー全員との交流が目的である。合図があるまで続けることという指示を出したため、会話は活発におこなわれた。

### ④「大学生準備度」をチェックする—チェックリスト／「明星大生になるまでに」を考える

授業導入のアイスブレイクの後、「大学生準備度」をチェックする「チェックリスト」をおこなった。入学後の大学生生活をイメージすることと、現在の生活を振り返り、自分を客観視することが目的である。そのため 12 の質問の内容は、「生活習慣」「コミュニケーション」「学習習慣」「大学生活への理解」という 4 種類の項目で構成している。「チェックリスト」をおこなった後に、考えを深めるために各自の考えを書く 3 つの質問も設けた。

この一連の作業後に「明星大生になるまでに」のプリントを配布し、「チェックリスト」がどのような主旨で構成されているのか、また何を確認してほしいのかを説明する。各個人の結果をグループで紹介し話し合うことにより、他者との違いを知り、刺激を受けて自分を振り返るという流れに繋がるようにした。

⑤「通信添削」ガイダンス

「通信添削」担当の四谷ゼミナールの教員によって、「通信添削」について詳細な説明が行われた。「通信添削」は参考書・辞書を使って調べたり、スクーリングを利用して問題を解いてもよいことなどを説明した。この説明により、昨年度から「通信添削」に取り組む学生が増加して学習意欲の向上も見られ、通信添削の返送率も高くなったという結果が得られた。

⑥「明星大学校歌」を聞く

CD で校歌の演奏を流しながら、合唱部の学生たちが誘導して歌ったことで、初めて聞いた歌を歌うという難しさも和らいだように見えた。短時間で大学の雰囲気を知り、明星大学の学生としての自覚を持たせるという点で有効なプログラムだと考える。「自立と体験1」の自校教育の回に接続して良い影響がもたらされることを期待したい。

⑦「振り返り」

授業の最後に「スタートアップ講座」に対する考えを「振り返り」として書き込み、再びグループ内で発表して終了した。改めて「大学生活が開始されるまでの期間をどのように過ごすか」「この期間にやってみたいこと」など、新生活を具体的に考えるきっかけを作ることができたようだ。

(3)「学科交流会」

所要	内 容	方 法	注意点・配布物
5分	3学科を対象 ガイドブック 23頁	各学科からの連絡を待ち、それに従うように説明する。	
15分	在学生のスピーチ (2名～4名)	現在の大学生活で、自分が興味を持ってやっていること。入学までにやっておいて役に立ったと思うこと。新入生へのメッセージ。	
10分	「入学前教育」について アンケートを実施	時間をとって、アンケートの中の200字の「今日の感想」をきちんと書くように強調する。	アンケート2種類

【授業内容】

①学部学科別の指導

各学部学科別の教室に入学予定者は移動し、授業または授業の説明が担当教員によっておこなわれた。時間は学部学科によって異なるが、30分～60分以内で実施した。「学科交流会」を別の日程で実施予定の3学科「福祉実践学科」「心理学科」「教育学科」については、明星教育センターの教員が担当した。

次の②以下では、明星教育センターの教員が担当した授業内容を紹介する。

②在学生のスピーチ

今後の入学までの期間は、各学部学科からの指示に従うことを伝えた。在学生(2人～3人)がスピーチを担当し、自分の大学生活の体験談を紹介しながら入学予定者へのアドバイスをおこなった。入学予定者は年齢的に近い在学生の話に興味深く聞き、良い効果を与えたと思われる。進んで入学後の生活について個人的に質問する入学予定者の姿もあり、現在の彼らの不安を解消するのに役立ったようだ。

③アンケートの作成

「入学前教育プログラム」についてのアンケートを実施した。時間を15分程と長めに取り、「入学前教育プログラム」

に対する意見・感想を 200 字で書くように指示した。

入学予定者の感想は、「大学生活が始まるまでにやるべきことがはっきりした」「合格が決まって浮かれていたが、何をしておくべきなのかがわかった」という意見が多かった。大学生活までの時間をどのように過ごすべきかということ「スタートアップ講座」では最も強調して伝え、また最も理解してほしい点であったので、良い結果が得られたと考えている。

また、次に多かった「同じ学科の人と友だちになれてよかった」「明星大学のことがよくわかった」という意見から、入学予定者の多くが抱いていた大学生活に対する不安も解消されたのではないかと受け取れる。1 日という短時間のプログラムの中で、入学予定者が充実した時間を過ごし、予想以上の理解力を発揮していたことがわかった。

#### 4. 学生スタッフ

「スタートアップ講座」の開始時に学生スタッフがグループ分けをする。教室内の担当するグループの位置を確認しておくこと、授業中の資料配付方法など、一緒に担当する学生スタッフとの間で事前に打ち合わせをしておくように指示した。

学生スタッフはのべ 76 人が補助に入り、モノレールの駅から会場である校舎までの誘導、「プレテスト」での問題配布・解答用紙回収の補助、教室入口での座席への誘導、「スタートアップ講座」でのグループワークのサポートなどの仕事を担当させて、1 日のスケジュール表に従って行動するように指示した。また、赤い T シャツや赤いジャンパーを着用させて、入学予定者がスタッフであることがわかるように工夫した。

「入学前教育プログラム」は三年目を迎え、学生スタッフの中にはこれまでの「入学前教育プログラム」や「自立と体験 1」の SA の経験者が増えているため、入学予定者の誘導や教職員との連携を円滑に進めることができた。事前研修をおこなわずに、当日の朝の説明のみで臨んだが混乱は見られなかった。

#### 5. 「入学前教育プログラム」入学予定者の参加状況

全体を平均すると約 80% 以上の出席率となり、新入生にとって大学生活への関心と期待が大きいことが読みとれる。

日 程	対象者	当日出席者	参加率
平成 24 年 11 月 18 日 (日)	351 名	277 名	78.9%
平成 24 年 12 月 16 日 (日)	603 名	525 名	87.1%
平成 24 年 12 月 23 日 (日)	86 名	72 名	83.7%
合 計	1040 名	874 名	84.0%

#### 6. 入学予定者へのアンケートの状況

入学予定者へのアンケートは、11 月 18 日、12 月 16 日、12 月 23 日の「スタートアップ講座」受講者を対象に 3 回実施した。アンケートの結果は、「プレテストで自分の力を知った」「勉強だけではなく、自己管理をして生活態度を改善しなければいけないと思った」など、「チェックリスト」で確認した内容と関連するものが多く見られた。

さらに「明星大学をよく知ることができてよかった」「不安と緊張ばかりを持っていたが、同じ学部の人と友だちになれて安心した」「大学が始まるまでにやっておくことがわかった」「大学はコミュニケーションが大事な場所なのだった」「先輩の話から楽しく充実した大学生活がわかり、自分の大学生活が楽しみになった」など、新生活へ



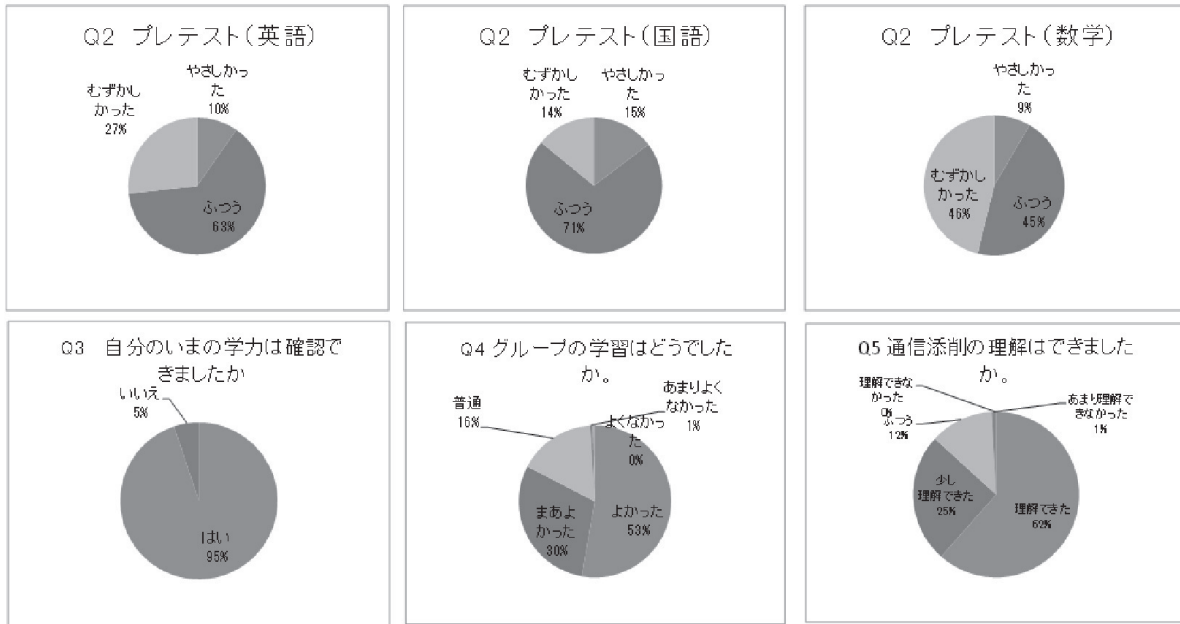
の期待と意欲に満ちたものが増えてきている。

様々な他者と関わることに對して、不安である反面喜びを見いだしていることもわかる。ほんの小さなきっかけで不安が安心に変わること、コミュニケーションをとろうという気持ちを持つことで大きく世界が広がることを体験できたと思われる。以上のことから、今年度も「入学前教育プログラム」の意義を達成できたといえるだろう。

以下に3回分のアンケート結果を集約したものをあげておきたい。

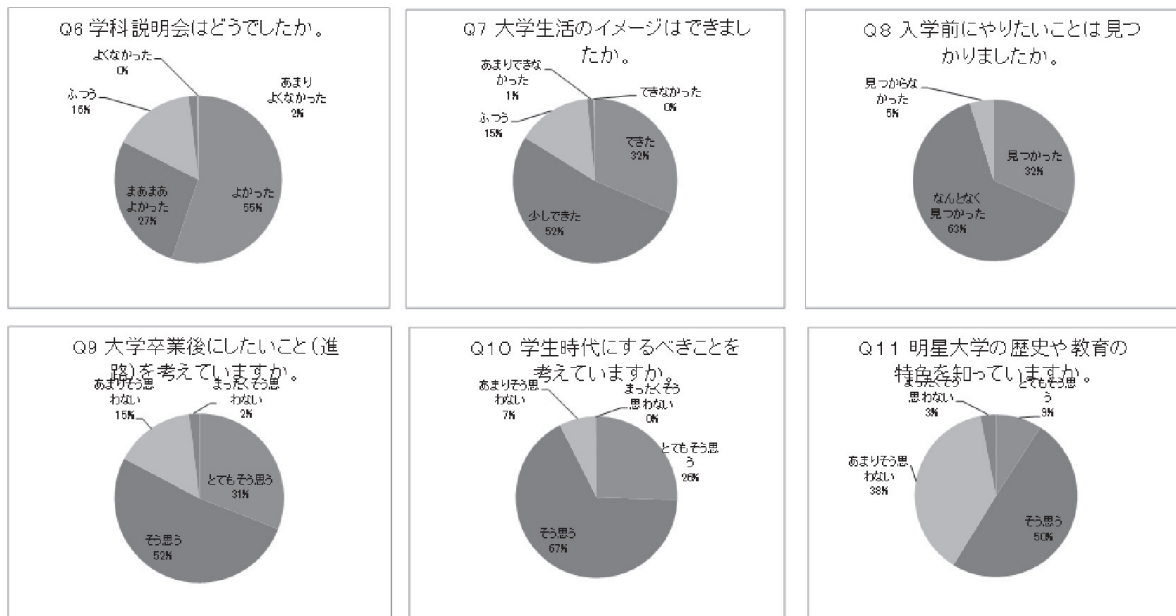
2012年度 入学前教育プログラム  
入学予定者アンケート集計(全日程)

2013/2/6 15:21



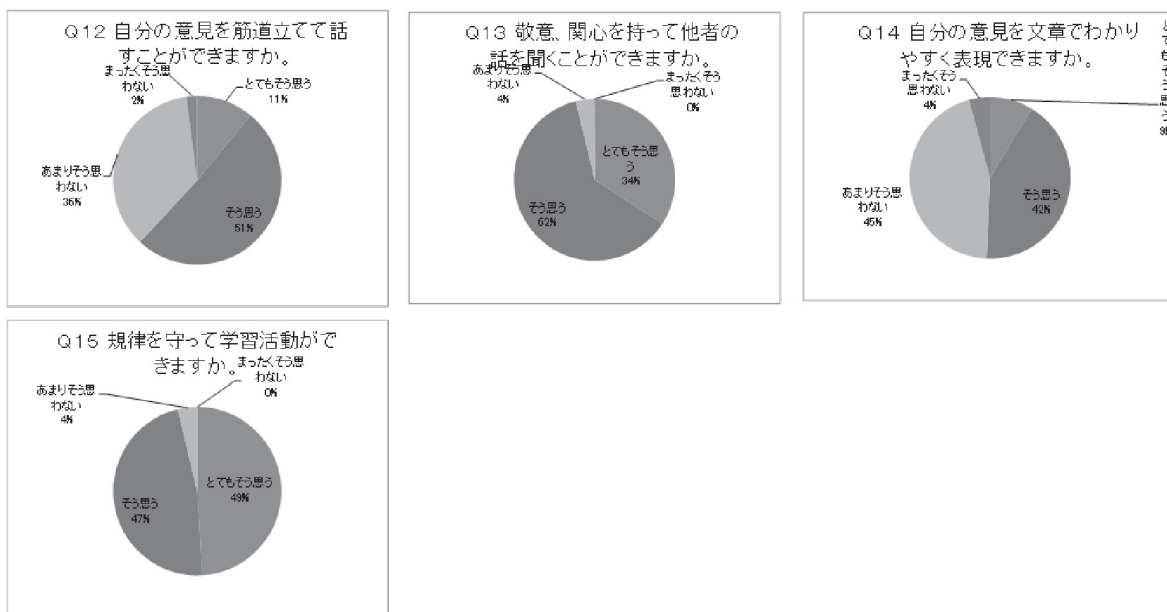
2012年度 入学前教育プログラム  
入学予定者アンケート集計(全日程)

2013/2/6 15:21



2012年度 入学前教育プログラム  
入学予定者アンケート集計(全日程)

2013/2/6 15:22



## 7. フォローアップ講習

昨年度に実施した「フォローアップ講習」を、平成 24 年度も 2 日間で実施する予定である。日程は平成 25 年 3 月 13 日・15 日の 2 日間で予定しており、50 分授業を 2 コマ実施する。対象者は、通信添削の国語の総合点 45 点（100 点）以下で、作文点 6 点（20 点）以下という両方の条件に該当する者である。

今年度の改善点としては、「入学前教育プログラム」で実施したグループワークの話し合いにより、「大学生活への不安が解消された」という意見が多かったため、「フォローアップ講習」も今年度はグループワークを導入して実施する予定である。話し合うことで入学予定者の緊張感を解きながら、各自の柔軟な考えを引き出したいと考えている。

講座実施の目的は、①自分の考えを文章で表現することは楽しいと実感できるようにする、②自主的に通信添削に取り組み意欲を持つようにする、③大学生活において文章の作成は必要不可欠であることを理解するなどである。また、勉強をサポートするリメディアル教室を、入学後も積極的に利用するように指導することも必要である。

### 【フォローアップ講習①】(50 分)

所要	内容	方法	教材
10 分	フォローアップ講習の説明とグループ分け(4 人一組)	文章作成は大学生活に必要であり、レポート・試験に対応できるようにすることを意識する。自分の考えを、わかりやすい文章にして表現できるようにする。4 人一組のグループに分ける。	プリント
20 分	【グループワーク】話し言葉と書き言葉ワーク①	「話し言葉と書き言葉」の違いを理解する。話し言葉で書いたメール文を書き言葉にかえる。個人で作業をしてから、ペアで相談する。正解を解説しながら、わかりにくい表現なども説明する。	
20 分	【グループワーク】わかりやすく伝えるワーク②	「自分が最も楽しかったと思える体験」について、ペアで聴きとりをして、グループ内で他者紹介の形で発表する。伝えることの中には「話す」「聴く」があるが、どれだけわかりやすく「話せるか」に注意して実施する。	

【フォローアップ講習②】(50分)

所要	内 容	方 法	教材
5分	文章作成のポイント	書き言葉での表記、主述の関係など、文章作成上のポイントをプリントで説明。	プリント
20分	文章作成ワーク③	1時間目の「自分が最も楽しかったと思える体験」について、自分の体験と、なぜそう思うのかという理由も書く(160字)。	
10分	【グループワーク】 ワーク④	文章をペアで交換して、わかりやすく自分らしさが出ている文章になっているか、1時間目で聴いた話がどのように文章化されているかという点に注目して互いに感想を伝え合う。	
5分	リメディアル教室の説明と提出課題	リメディアル教室の入学前からの利用方法と、フォローアップ講習後に提出する課題を、リメディアル教室で指導を受けてハンコをもらい、3月末までに明星教育センターに提出することを説明する。	リメディアル教室プリント
10分	リメディアル教室利用について在学生の話(2名)	入学後のレポート作成や、さらに就職や資格試験の準備にもリメディアル教室を上手に利用している話を聞く。 ※授業終了後、リメディアル教室に案内し場所の確認をして解散する。	

## 8. 今後の展望

三年目を迎えた「入学前教育プログラム」は、一年目・二年目の反省点を生かして無駄を省略し、さらに簡潔にプログラムを進行させることを主眼とした。その結果、教職員と学生スタッフの連携も改善され、3日間の「入学前教育プログラム」の出席者は874名になり、12月16日には「プレテスト」「スタートアップ講座」を大教室3クラスで実施して「学科交流会」への移動もあったが、大きな混乱もなくプログラムを進めることができた。

また、グループワークで進める「自立と体験1」の授業への学生の取り組みという点においても、その変化が明確になってきている。それまでの学校生活でグループワーク形式の授業を体験していない学生が多いはずなのだが、グループワークを自然に受け入れて「自立と体験1」の授業を受講している学生の様子から、「入学前教育プログラム」の効果の大きさを実感している。

入学まで4～5ヶ月という大切な時期に「何をやるべきなのか」を入学予定者にじっくり考えさせることは、自らの大学生活を充実させるために大変重要なことである。この経験が、常に自分と向き合い何をすべきなのかということを考える第一歩になると確信している。今後も「入学前教育プログラム」が、入学予定者の学習意欲を向上させるとともに、新生活への希望を抱かせる契機となるように努力していきたい。